

放送人の会

No・42
2009・9.18

〒102-0094 千代田区紀尾井町1-1 千代田放送会館 3階

Tel&fax 03-3221-0019 E-mail info@hosojin.com

代表幹事 今野勉 編集担当 伊藤雅浩、鈴木典之、松尾羊一 事務局担当 佐藤真美子

デジタル・ネイティブのいま

代表幹事 今野 勉

デジタル・ネイティブという言葉
を数年前はじめて知った頃、それは、
生まれた時からデジタル機器のひ
ととしてパソコンが身近にあり、
インターネットを道具として使っ
て生活することがあたりまえにな
っている世代のことを意味してい
ました。

コミュニケーション・ツールとし
てのインターネットは、発信者は即
受信者であるという双方向の機能
を持つており、かつ、個人としての
発信者が瞬時に世界的な規模でコ
ミュニケーションができるという
ネットワークの機能を併せ持つて
います。

テレビというメディアは、デジタ
ル化したとしても、受信器たるテレ
ビモニターに一方方向で一斉に情報
を送るという機能に変わりありま
せん。衛星を使って世界規模で同時
放送できるとしてもテレビ局から
の一方方向のコミュニケーションで
あることに変わりはありません。

というわけで、私たちテレビマン
にとつて、インターネットは、テレ
ビに敵対的存在と映っていました。
テレビというメディアを旧メディ
アにおとしめるニュー・メディアの
登場というわけです。かつての映画
とテレビの関係を思い起した人も

少なくなかったはずですが。

たしかに、デジタル・ネイティブ
の登場によってテレビを見る人が
少なくなったりテレビを見る時間
が少なくなったりという現象が現
れはじめました。セット・イン・ユ
ースの減少です。

セット・イン・ユースの減少はテレ
ビの告知媒体、広告媒体としての価
値を低下させます。

それに加えて、インターネットが
広告媒体としての機能を持つよう
になるとともに広告費の一部がイ
ンターネットに流れることになり、
相対的にテレビへの広告費は減少
の道を進むことになりました。イン
ターネットはテレビにとつて脅威
となつたというわけです。

しかし、私たちテレビ制作者は、
すぐにインターネットの限界に気
づきました。

まず第一に、インターネットから
コンテンツは生まれえないというこ
とです。コンテンツという言葉がし
っくりこないならば創造的作品と
言いかえましょうか。つまり、かつ
ての映画とテレビの関係とは違う
ということなんです。かつて私たち映
画に対して創造性のレベルで戦い
を挑んだのです。

第二は、インターネットの武器で
ある検索機能によって得られる情

報は、既にインプットされた既知の
情報であり、期待内の情報であるこ
とです。得られる情報や交流が作り
だす世界は、嗜好的な、おたく的ク
ローズド・サーキットの世界です。
そこでは、自らの存在を揺るがす情
報や人間に出会うことはほとんど
ありません。

テレビは、一方方向的であるがゆえ
に、視聴者の想像を超える、未知の
世界を提示することができません。

そしていま明らかになりつつあ
るのは、一次情報を発信するテレビ
とそれを増幅・普及するインターネ
ットの二次的役割です。テレビとイ
ンターネットは、情報のレベルでは、
敵対的というよりはむしろ補完的
になつているようなのです。

ところが、ここに来て、デジタ
ル・ネイティブに新種が誕生してき
ました。いつでもどこでも発・受信
できないデカブツのパソコンは旧
ツールで、それに代わって若者たち
が使いはじめてるのがケイタイ
です。

ケイタイがインターネットと接
続し、動画やワンセグを見ることが
できるツールとして日々に進化し
ているいま、小説、動画、テレビま
で含んだすべての機能を持つケイ
タイ・デジタル・ネイティブが登場
してきたのです。

さて、これは何者でしょうか。秋
の夜長、テレビを消して考えないわ
けにはいきません。

「第9回日韓中テレビ制作者フォーラム」に向けて

仁川そして日韓中

大山 勝美

仁川には2000年に延べ20日以上滞在した。毎日放送の開局記念番組制作・演出のためである。サッカーのワールドカップ共同主催後の日韓新時代にふさわしい「若ものの交流」をテーマにと山田尚さんから話があった。

新鮮な素材を探そうと、仁川国際空港建設に「つり橋」部門で日本人スタッフが参加していることが判った。仁川海岸は干満時の高低差が3mある。朝鮮戦でのマッকারサーの仁川上陸は、その差を利用してのだが、橋をかけるには「つり橋」がベストとなった。世界では、日本とスウェーデンがダントツの技術を持っている。オールコリアスタップが売りものの空港建設作業に、マル秘で日本チームを頼んだのだった。

ともあれ、2000年6月の時点では、橋はほぼ完成していることもあり、韓国側の許可があり、長期滞在の収録となった。番組は初の日韓合作も狙ったが、まだ機熟さず、韓国側は制作協力の形となった。工場現場での若い日韓スタッフたちの軋轢と友情のドラマである。タイトルは「小さな橋を架ける」。脚本は山田太一。外観的には大きな橋をつくる共同作業だが、友好には心と心に小さな橋をかけることの方が大切だとの意味をこめてのタイトルである。

このところテレビドラマを中心に、口

韓中の番組交流が活発化しつつあると、放送文化基金が「テレビがつなぐ東アジアの市民」という国際シンポジウムを開いた(7月17日)。番組交流で人びとの意識がどう変化したか、北京、ソウル、東京でそれぞれ1000人の市民に調査した結果などが紹介されたり興味深かった。第2部インターネットによる意識調査のコーナーを司会した藤田真文氏(法政大学)によると、隣に大国の中国、東に文化度の高い日本を控えている韓国市民はテレビ視聴を相互理解にもっとも役立つと強く意識しているという。

韓国・台湾のスタッフは日本の90年代のトレンドドラマで東京の都市文化の様相を、自分たちの未来像として熱心に視聴した。最近では自分たちのテイストで、日本版を後追いする形で青春恋愛ドラマをつくりはじめる。それが日本に逆上陸、また中国はじめ東アジアで人気をよんでいる。

違法ながら韓国・中国・台湾の若ものたちは、インターネットで日本のテレビドラマを熱心にウオッチしている。東アジア大衆文化圏のなかで、日韓中(台湾を含む)のドラマは、ゆるやかな循環をおこしているのである。

鄭英雄氏が一人でカメラをかついで取材・製作・演出した「明妃暗殺」がテレビ朝日の報道ステーションで紹介された。事件に関与した熊本の子孫が、謝罪のためソウルをたずねる姿を追いかけている。

1909年10月、伊藤博文が安重根に射殺され、翌年8月、日韓併合条約が調印された。NHKでは「日本と朝鮮半島100年」という特別企画シリーズを何本か放送する予定である。

仁川空港は38度線に近い。橋の建設現場はいつも韓国軍が厳重警備していた。飛行機は離着陸のとき、北朝鮮側すれば迂回する。「危険な場所に何故国際空港を？」という質問を韓国側幹部にしたとき「統一後のハブ空港として考えているのです」とちよつと胸をはった感じになった。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆
大会準備の現状

山田 尚

地域によって差異はあったようですが、今夏は微妙な感じの不安定な気候でした。当初言われていた、暑くなると収まるだろうという新型インフルエンザも予測どおりには行かず流行、政治社会も変動しようとしています。みなさん、とりあえず体調管理にだけは十分気をつけてください。

さて本年の日韓中テレビ制作者フォーラムは、韓国の仁川で開催されます。

21世紀の最初の年、日本(九州地区を中心)と韓国のドキュメンタリー番組制作者たちが、博多・釜山間のフェリー船上で、ドキュメンタリー視点や捉え方、作り方を、膝を突き合わせて討議をしたというのがこのフォーラムの始まりでした。その後、第3回にオプザーバーとして中国が参加、第4回からは、日韓に中国を加えた東アジア33カ国のフォーラム

となりました。放送人の会が日本の窓口になったのは3カ国になったその第4回(2004年)から。来年10周年を迎えますがフォーラムの経緯のおさらいです。ところで昨年の福岡大会は全般的に好評でした。その大きな要素のひとつが、初めての試みでしたが、同じ会場で全作品を見た参加者全員による投票をベースに、「グランプリ」をはじめとする参加作品への賞の制定でした。

選考対象は参加した各国4作品、計12作品。ところで投票者(参加者)は各国同じ数ではありません。国際大会としては、そこで不平等感が出ないように配慮が要ります。従って、まず第1次選考として、全参加者は、3カ国それぞれの国の4作品のうちから、ベスト1(グランプリ)を(ですから3カ国で計3作品)投票するのです。自国、他国関係なく結局は国別の順位も出るということになります。そして、得票数上位6作品を入賞作品とします。次に第2次(最終)選考として、各国2名からなる審査委員の審議により、入賞6作品から、ベスト1(グランプリ)、以下、最優秀作品(2作品)優秀作品(3作品)を決めるという手順です。いろいろ考えた末の形でした。審査委員会では順位と関係なく活発な意見が出されましたが、審査委員会の結果も1次選考の得票数の順位と一致し、南日本放送の「やねだん」がグランプリに選ばれました。各国の1位作品は、どの国からも最高の得票を得ていましたし、他の作品も、作品の評価に国による大きな違いはありませんでした。投票者がテレビの番組制作に関係している人たちが殆どだし、作品の制作者との質疑応答や意見交換も共有

第9回 日韓中テレビ制作者フォーラム 韓国・仁川大会 日程

2009.10.14~17 仁川市コンベンシア

【テーマ】都市と人間

10月14日(水)	
~14:00	ホテル イン
14:00~15:00	組織委員会会議
15:00~17:50	作品鑑賞(2作品)
18:00~19:00	開会式、等
19:00~19:30	各国TV事情発表
19:30~20:00	特別講演「都市と人間」
20:00~21:30	晩餐
10月15日(木)	
09:00~11:50	作品鑑賞(2作品)
12:00~15:50	記念写真、昼食 懇親 ツアーⅠ
16:00~21:20	作品鑑賞(3作品)
10月16日(金)	
09:00~11:50	作品鑑賞(2作品)
11:50~13:00	昼食、親交
13:00~17:20	作品鑑賞 (テーマ作品以外・3作品)
17:20~19:00	優秀作品投票(全員) 作品審査委員会
19:00~	夕食、親交 ツアーⅡ
10月17日(土)	
09:30~11:00	総合シンポジウム
11:00~12:00	閉会式、授賞式 公演
12:00~13:00	昼食
13:00~	解散



していたこともあるからかもしれません。演出の斬新さやディテールの工夫、面白さという要素もあるけれど、最終的には共感を呼ぶ、テーマが明確で分かりやすい、といったものが評価を得たようです。今回も基本的にこの形を踏襲する予定です。

映像作品の国際コンクールはいろいろありますが、このフォーラムは、テレビというメディアの番組制作者たちが互いに交流、意見交換をし、刺激を受け、新しい発見や方法を得る場でのコンクールというのが、他とは異なる特徴です。

今回、日本からは、映像作品として優れたということだけでなく、テレビというメディアならではの意味が大きいキャンペーン番組も参加します。各国の参加者たちにも、マスメディアたるテレビの役割りをこの作品で再確認してもらえればと思います。

(追記) このフォーラムでおなじみの、韓国・MBCの宋日準さん、教々のスク

ープで大きな話題や問題を投げかけた番組「PD手帳」のPDでしたが、今夏の衆議院選挙に来日、独自の日線取材されていた様子が、新聞の記者コラムの欄で紹介されていました。

もし今年参加されていたらお話ししてみてください。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

日本からの参加作品

日韓中テレビ制作者フォーラムでは、毎年参加作品のテーマを決めることにしていますが、今年のテーマは「都市と人間」です。そして作品のジャンルは自由ということになりました。

「都市と人間」というテーマは、開催地の仁川市で現在都市開発が進められており、それに因んでつけられました。都市で暮らす人間の様々な問題を考え、みようというのが、今回のフォーラムの一つの目的です。

各国から参加する作品は、それぞれ、テーマ作品が三本と、自由作品一本の四作品になっていますが、日本からは、NHKを含む在京六社からの推薦と独自に設けた選考委員会の検討により、次の四作品が参加することになりました。(選考委員・堀川とんこう、河野尚行、松尾羊一、藤久ミネ、石井彰。)

①テーマ作品

*ドラマ・「お買い物」(NHK)

田舎に住む老夫婦に、東京で開かれるカメラの見本市のダイレクトメールが届き、二人は東京へ「お買い物」に出かける。(制作・遠藤理史)

*ドキュメンタリー・「ネットカフェ難民」(見えないホームレス急増の背景)

(日本テレビ)

格安のネットカフェで眠る派遣労働者たちの実態を追い、現代日本の過酷な労働市場の一面を描く。(制作・水島宏明)

* キャンペーン・「鳥取方式」による校庭芝生化普及報道(日本海テレビ)

六年に渡って学校の校庭の芝生化に取り組むニュージーランド人の活動を紹介します、その意義を考える。(制作・福浜隆宏)

②自由作品

* ドラマ・「風のガーデン」第一回

(フジテレビ)

末期のすい臓ガンに侵された麻酔医を主人公に、人間の生と死を見つめながら、家族の再生を描いた人間ドラマ。(演出・宮本理江子)

このうち、番組の作品性というより、キャンペーンとして取り組まれている日本海テレビの報道活動が参加作品の中に含まれているのが、今年の一つの特色です。

(記・長沼士朗)

2009年夏の放送ジャーナリズム

編集部 今年の夏は終戦特番と総選挙とノリピー（笑）が重なった面白い年で、「2009年夏の放送ジャーナリズム」という題で、報道番組に限らず、ドキュメンタリーから戦争ドラマ、政治ドラマまで広くお話ししていただきたい。まず特番から：

X 2011年が敗戦70周年で、それに向かつてNHKは戦争証言集を作成している。

これまで広島、長崎、都市爆撃などの戦争体験番組はやってきた。地方局は、広島は広島、長崎は長崎、そして例えば静岡は静岡のそれぞれの材料を持っている。一方軍人として戦争を体験した現在85歳以上の存命者はあと10年もすればいなくなる。彼らが人生の中で言わなければならなかったことが今出てきていくのではないか。これらを片っぱしから取材した記録がある。

陸軍の場合、軍事行動は連隊が単位で、連隊は地域が基盤だ。静岡〇〇連隊、青森〇〇連隊などのそれぞれが、満州からフィリピン、中国から沖縄へなど行くが、それらの材料を地方局が持っている。例えば「戦場の少年兵たち」沖縄県・鉄血勤皇隊「ビルマ 濁流に散った敵中突破作戦・徳島歩兵143連隊」「フィリピン・シブヤン海戦艦の最後」横須賀海兵団「など30以上の番組がある。

今年の夏からはビルマ、ニューギニア、フィリピン、硫黄島などの激戦地を戦場

体験から系統的にまとめ、掘り起こしたものがいくつもある。一方、NHKのプロジェクト・ジャパンは「E.T.V特集」で韓国と日本、台湾の問題を扱っている。台湾はちよつと問題になったが、

という具合で、NHKは二つのスタンズで戦争と現代史を扱っている。

Y 戦争特番は大体見ている。「兵士たちの証言」は一昨年からやっていて、古いものは本になってNHK出版から何冊か出ている。3年続けているものを一部再放送して今年も続けてやっている。

Z 驚くのは苛烈な戦場から生き返ってきた人たちが元気で長生きなことだ。

X 海軍の話に出てくるが、偉い人たちはみな助かって長生きしている。農村でも小隊長、中隊長などが生き残っている。玉砕の場合、死ぬのは末端の兵士だから。

Y 「日本海軍400時間の証言」水交社に集まる海軍軍令部の中枢にあつてかなり実務的な仕事をしてきた連中、最上層部の情報や考え方には詳しい。

Z 遠慮がちに喋ってはいいたが、特攻隊が出来るまでとか、驚くべき話だね。

X 特攻隊生みの親の大西瀧治郎は終戦の翌日割腹自殺した。

Y これまでは兵士として戦争に行き、酷い目にあつたという番組がふつうだったが、2・3年前から実は加害者だという番組が出てきた。軍部に対してはこれまで外部からの批判はあつたが、この番組に出てくるのは海軍内部の本当の実力者で、彼らが上層部を批判している。

驚いたのは「天皇制との関わりをきちんと押さえないければ、何の反省にもならない」と元中将が発言したことだ。「後世に判断させるためだけにデータを残そう」との発言も記憶に残った。本人は5千点のデータを残して死んでいる。そんな意味ではこれまでの戦争ものとは違う視点で、このデータをどう判断するかはもつと先のことなのかもしれない。

Z 日本は今に始まったことではなく、無責任体質で、一番上の人が最も責任をとらない。そして責任は現場に押し付ける。それを初めて明確に描いたのがこのドキュメンタリーだ。「中国戦線 大陸断悲劇の反転作戦」は陸軍の参謀が勝手に作戦を強制してみんなが右往左往して滅びて行ったというひどい話だ。

X 麻生太郎の「責任力」が薄っぺらなものだと日本人が見抜いたように、日本人は誰がどう責任をとるかをみている。「官僚たちの夏」でもそうだし、今NHKでやっている「再生の町」は偉い官僚ではなく、末端の小役人だが、自分の責任で利害の相反することからをどう処理して行くか、自分の役割をどう果たして行くかの物語だ。

Y BC級戦犯について「上官に命令されたからやむを得ずやつた」という立場でなく、「戦争に参加した者の責任」という立場で考える。日本の戦争責任をどう位置づけるかの基本線がやつと出てきたと思う。

Z 戦後、「実は海軍が一番悪いのだ。米内が最大の悪だ。陸軍は割を食つたのだ」と庶民レベルで言われたことがある。それは一体何だつたのか、これでわかる。

X その一方で中枢の人間が自ら「陸軍は暴力団だ。海軍は知能犯だ」と言っている。あれには参つた。

Y 統帥権の問題を陸軍にさんざんやらせておいて、その裏で海軍はひたすら組織を守る工作をしていた。海軍は終戦後も一致して東京裁判で責任を逃れる工作をする。「そうやって海軍の戦犯は死刑を免れることができた」との証言を聞くと、こんなことが当時庶民レベルには分かっていたのだ、漏れていたのだと思う。

Y どの国でもそうだろうが、海軍と陸軍は資質が全く違う。海軍は軍艦の中での組織であり、連合艦隊を組織し、大艦巨砲主義を進め、米内光政、山本五十六、井上成美だ。

雑談になるが海兵の74期生は7月に兵学校を繰り上げ卒業して回天組と震洋組にくみこまれる。回天は人間魚雷、震洋はロケット爆弾だ。震洋組は北海道・千歳飛行場で訓練をしてひたすら出撃を待っていたら終戦になった。だから事故死以外は全員生き延びた。卒業生のうち8割が回天組、2割が震洋組だが、震洋は千歳に2機しかない。ある日訓練があり、見ているとふわーと飛び立つてすぐに墜落。乗っていた奴は殉職だ。「こんなじゃいやだ」と思っていたら1ヶ月で終戦だ。

彼らの兵学校時代の校長が井上成美で、彼のことは阿川弘之が書いている。完璧なイギリス仕込みのジェントルマンだ。入学すると第一軍装の制服、短剣そして英英辞典が支給される。1週間に2時間英語の授業があり、ディケンズを読まされた。元文化放送の島地純さんの話だ。

我々はその頃勤労働員か疎開だ。予科練に行く奴はいたが、頭のいい奴は陸士

か海兵だった。あの時代最も学生らしい学生生活を送っていたのは海兵だった。

そんな海兵的なものがあちこちにあり、加藤周一は軽井沢の別荘に行き、戦争が終わるまで待つていたし、ある文豪は疎開して牛肉をたらふく食っていた。そして一方では人肉を食う苛酷な地獄がある。全体像としてはそうで、われわれは勤労動員で、死ぬイメージは全然なくて天皇陛下のために働いていた。

北朝鮮とその頃の日本が似ていると言うが違う。日本は変な国で曲がりなりに中間層が存在し、全体像がいまだに見えない。

Z ちなみにこの海軍の3部作を作ったのは右田千代という女性Pだ。

X 日本の歴史学は戦後御陵墓の発掘をしようとしたが宮内庁の反対で実現しない。歴史を探るには柳田國男や宮本常一の民俗学の方法しかないのかもしれない。太平洋戦争の歴史もいろんな学者、文芸者、軍事評論家書いているが、机上の作業だ。今、庶民の伝える戦争民俗学が始まっているようだ。「平家物語」は成立するのは平家滅亡から30数年たった鎌倉時代、源氏から北条へ変わるころだ。戦争が語られるにはそれくらいの年月が必要なのだろう。庶民レベルの記録にはまだまだ隠れているものがありそうに思う。NHKのこれからの取材に期待したい。

Y 右田から聞いたことを伝えると、テープを入手したのは数年前だ。別の最終番組を制作していて、その時入手した。それを充分あためて今年出した。数年前海軍の側が決意して出そうと諒承したことは間違いない。その出そうと思った

時点は水交会で録音したときから約10年たつていて、ずいぶんタイムラグがある。水交会であの反省会を始めたのは間違いなく海軍だが、何故海軍がああを始めたかはわからない。番組を見ると分かるが、議論で一方的に批判された反対派は次の会では出席していない。

Z 戦後政治家になった保科善四郎(終戦時軍務局長)が出ていた。

X あの中で攻撃された人物が出てくるが、番組は何らかの形でその人物を救っている。仲間からあれだけ徹底的に糾弾されるが、「それなりの事情があった」とか、息子に救わせるとか、PかCPの配慮をうかがわせるものがある。

Y キャスターが「組織の人間としてこういうことはありうる」と言っていたのもそれだ。

Z 見ている側がそう思っているときにキャスターが自分と同じ考えを言いきるのはどうか。彼のおじいさんがフィリピンで死んでいるそうだから、途中言ったのは許せるが、最後、特に最終回の最後は言い過ぎ、決め過ぎだ。「これは軍隊だけでなく現代の組織にも通じることです」など余計なコメントだ。

X あれは社会部の男で、本人の気持ちとしては「今の人間に戦争のことはわからないだろう」と親切のつもりだろう。

Y 現在の企業にも社長や会長の統帥権的なものはあるだろうが、あの時代の統帥権と比較するにはバランスがとれない。あの言い方は軽すぎる。

Z ただ現場と設計者の乖離についてはあつていて。年金の設計者と社会保険庁の現場がそう。NHKでもフジでもやつたが40歳前後の中間管理職の働き手

を集めて経営戦略部を作り、設計をさせたが、現場でふうふう走っている側からは「あの野郎ども」と白い目で睨んでいた。年金では1億人に手紙を出したが、1億人に手紙を出したら後どうなるか、設計者は想像できない。エリート役人には想像力がない。

X 今度の鳩山と菅は二人とも理系だが、海軍の中にも文系と理系がある。「戦艦大和の最期」を読むと吉田満はおそろしく文系だ。大和に乗っていた連中もほとんど文系で、文系的に考えないとやっけない。「世界の3馬鹿、ピラミッド、万里の長城、戦艦大和」と自嘲しながらガールーム(士官室)で自棄酒を飲んでる状況の描写は平家物語そっくりだ。小林秀雄がああ作品を「美し過ぎる」と批判したが、実はほとんどドキュメンタリだ。戦争の記録は来年もまた出てくるだろうが、「戦艦大和」とは違う、新しい総括が出てきそう。

Y 陸軍参謀本部にはこんな記録はないのだろうか。水交会に対しては偕行社がある。

Z 海軍は基本的には理系だろう。技術集団だから反省会では数学的、理論的におかしいものはすげすげ攻撃する。陸軍は精神論で、数学的、理論的におかしいといった議論は欠落しがちだ。

X メディアが戦争を語るときは8割はヒューマンな面を語る。今回初めて戦争をやる側が語っていて、そこから日本全体のシステムの欠陥が浮かんできた。

Y しかしやる側の論理が語られることはもう時間的にならないだろう。70年前の指導者は今生きていれば100歳だもの。Z 今年注目したのは「400時間…」

と「戦争とラジオ」だ。この二つはこれからつながる、ある意味で原点になる作品だ。この後、誰が何を追及して行くか、それが最大の問題だ。今度の政変と係わってくるが、満州国建国時に岸信介などの若手の商工省などの官僚がやってきたことが戦後も引き継がれ戦後数十年日本の形を作ってきた。磯田光一ではないが、戦前と戦後はつながっているのだ。

憲法九条を巧みに利用して成功事例を重ねてきたのだが、バブル崩壊と今回のリーマンショックで方向を見失っている。海軍の彼らも国づくりの方法論としては間違えていないと思っていそう。民主党が国家戦略局をつくるのはあらためて参謀本部をつくっているようなものだ。これで「空気が」が変わっていないければ同じことだ。参謀本部の一握りの人間が暗い電灯の下で考えたことを現場に押し付けたのと同じことが起こりかねない。そのとき日本は新しい方法論を見出せるのだろうか。

X ところで選挙の話にしよう。

Y テレビで何が面白いかというと、開票速報、口曜の夜だ。プロ野球の名勝負などよりはるかにスリリングで面白い。

Z 毎日新聞のまとめでは8時の番組内の発表で民主党の議席予想を「NHK 329~298」、「テレビ東京 326」

「日テレ 324」(TBS、フジ 321)としていっているとある。実際は308で民放の予想はみんな過大で、自民党の予想は実際より少ない。出口調査と結果にはやはり差があつて、NHKは開票速報が始まると出口調査に基づく議席数予想の報道をやめた。

Y 民放は議席数予想を続けた。当確打ちの競争も続けたがNHKは慎重で、ちよつと腰が引けているように見えた。

X 開票速報は第1部議席数予想、第2部開票速報、第3部評論家の論評という構成になっている。チャンネルをカチャカチャ変えながら見ていたが個人的にはテレ東が一番面白かった。あの局は「WBS」でファイナルニュースを締めくくる習性をうまく生かしていた。最初からコメント・オンリーで、有名ではないがレギュラーの野村総研の연구원などを入れ、独特の新しいスタイルを作っていた。

Y テレ東はもともと速報をする気がなく、番組タイトルも「日本戦略会議 明日への提言」だ。コンセプトは明らかに違う。

X それで私は「テレ東、やったな」と思った。

Y 面白さということから言えばNHKは正確さを第1にしていたから面白味に欠けたかもしれない。

X いや、どちらが勝つかとドキドキしながらみるから面白い。正確な開票速報はやはり面白い。

Z 出口調査で議席数予想をやり過ぎて、開票速報が出てくるのは極めて遅い。昔は投票の締め切りが6時あるいは7時だったが今は8時だ。太田区の場合選挙区は2つだが、投票箱は1箇所を集める。集まるのが9時だ。集まる前に8時45分から開票を始めるが開票、集計には物凄く時間がかかる。全部仕分けしてそれぞれの票を何回も数える。今はビル・カウンターで数えるがそれでも時間がかかって、東京都選管が第1報を出すのは9時半だ。しかし太田区はその時間にもま

に合わず第1報を出したのは9時40分だった。だから開票ゼロで当確がどんどん打たれる。見ている人はそのギャップを今回強く感じたと思う。

X 出口調査は1選挙区で10000票はとる。人海戦術でそこまでお金をかけている。そして8時に当確を打って実際の票が開くのは9時半。ではそんなに早い当確にどんな意味があるのか？

Y かつては開票所に人を派遣して双眼鏡で覗いた。票の束の厚さを見比べて、「よしここで当確を出そう」と決断した。

Z 今は双眼鏡で覗くのはやらない。各開票所は都選管に報告すると同時に開票所ごとの開票結果を発表している。それを局にあげている。

X NHKの番組を見てみると「予想」とあるグラフの画面に双眼鏡が描いてある。(笑)

Y 今年は当確の打ち間違いは？

Z あった。4件。群馬の福田康夫、愛媛の塩崎恭久（永江孝子と接戦）の間違いが目立った。

X 現場では絶対あつてはならない間違いとされている。

X 週刊誌は7月から民主党が300超えるという予想を書きまくった。ポスト、現代、週刊朝日など大張り切りだった。あの基礎データはどこから？

Z 週刊誌が組織だつて調査をしているとは思えないが、アエラは既に来年の参院選の予測をやっている。

X データバンクを更新するから、専門家は非常に正確に読めるらしい。

Z それは当たっても当たらずともいいし、出口調査に比べて確度は相当に低い。ただ傾向は出る。

X 総選挙では議員の上位下位のランキングが生まれる。位の高いのが早い時期の当確議員、次が接戦で勝ち残った議員、新人、次が比例区、そして小選挙区で落選比例区で拾われたゾンビ議員が最下位だという。

Y 自民党総裁選挙でもゾンビの長老候補は黙殺される。

X 投票率は事前には75%の予想もあつたが、実際は69%。事前投票が10%を越えていたので当日の投票率は前回より低い。予想の75%との間には550万票の差がある。この550万票はもし投票されたら大部分が民主党へ投じられたらうし、自民党の長老はもつと落選し事態はもつと深刻だつたらう。

X しがらみ選挙はもう終わったのだ。創価学会が信者がらみで1軒1軒訪問して票を集めるやり方は通用しない。逆バネが通じないとあわせて気持ちが悪いくらい予想通りになった。

Y 選挙番組は当選のバンザイと落選議員事務所への傷心という選挙風景をまですやつて1日目が終わるが、翌日になると物語が始まる。これが判で押したように同じだ。議員宿舎の落選議員の引越、鳩山家華麗なる一族物語、小沢チルドレン伝説、夫婦で立候補し片や当選片や落選、両方当選、両方落選、中川議員の酒と涙

の物語：これがリビート映像がやたらに使われる。つまり夕方ニュースの中のプロダクションが造る構成ものと同じで、パターンは決まっていますどの局も同じだ。それが定時ニュースやワイドショーでも応用され放送されている。

Z 物まねタレントの「ニュースペーパー」が「麻生の真似は面白かったが、民

主党の幹部は気難しそうでやり難い」と言っている。他のお笑いタレントもバラエティーもこれから戸惑うだろう。

Y 政治漫画家もそうだ。

X 番記者、派閥の貼り付け、ギブアンドテイクなどの取材法はできなくなるのではないか。

Y 各局の政治部は今非常に困っている。これまで記者の配分は10対3くらいで自民党10、野党3だった。自民党に張り付いている10人は派閥単位に分担が分かれていて、その他に総理番がいた。3人の野党担当は民主党、社民党、共産党みんな見るという体制だ。情報のウラをとるためには派閥担当が大物議員のケイタイ電話の番号を何人分知っているかが勝負だった。「こんな話があるがどうですか？」と電話して、相手の大物議員が「そうだよ」と答えればウラがとれてニュースになる。そんな体制でやってきた。それが全部ひっくり返った。自民党の平河記者クラブはいつも満員でブースに二人入るのがやつとだった。これからはがら空きだろう。

Z 鳩山は記者会見を記者クラブを使わず、外人、フリーランスを含めた記者たちの場でやり始めた。今は国会内の民主党の狭い部屋やっているが、これからどうするか。

Y 社民党は「社会文化会館」を貸して家賃をとつたら(笑)

X 取材するのにも誰に聞くのか。派閥はなくても鳩山側近、菅側近、小沢側近に聞くという方法はある。だけどそれでいけるかはしばらく様子を見なくてはわからない。国家戦略局がどんな地位でどんなことができるか、予算での国家戦略

局と財務省の関係など今は全くわからな
い。

Y テレビに出てくる記者ががらりと変
わった。昨日まで自民党に食い込んでい
た記者が右から左に民主党担当にはなれ
ない。やはり人間関係なのだから、番記
者のボスがどうなるか、記者会見、取材
体制みんな見直した。

Y マニフェストは選挙後、八ッ場ダム
をどうする、高速道路料金はどうだと出
てきたが、テレビは選挙期間中にきちん
やっておくべきだった。地味で視聴率が
取れなかっただろうか。

X いや、マニフェストに踏み込みたか
ったが、ノリピー十押尾某の薬物事件で
バツバツ切られた。某局はセンキョ
派とノリピー組が取っ組み合いのケンカ
をしたそうだ。(笑)

Z これまでは自民党への白紙委任で、
公約は破られるのが当然、基本的には国
民に何の約束もしていなかった。マニフ
ェストはやはり進歩だと思ふ。

X インターネットの制約が日本はきび
しい。これの自由化によつては選挙はが
らりと変わるだろう。その極端な例は韓
国だ。韓国インターネットは全く自由で、
そのためインターネットでどう評価され
るかで選挙の結果が決まる。ノムヒョン
は完全にそうだった。

Y 自民党はインターネットをネガティ
ブキャンペーンにかなり使ったがほとん
ど無視された。

Z 国民性の違いだろうか。日本人はイ
ンターネットでのあんなキャンペーンに
馴染まない。
X それにしても日本は選挙法上きびし
い規制が山ほどあって、自由がない。公

示されたらホームページの書き換えもで
きないという規制はどんなものか。

Y 選挙法はインターネットをビラと同
じ文書図画と規定しているからそうなる
この遅れた感覚は見直さなければならな
い。

X そのうちケイタイから投票できるよ
うになるだろうか。

Z 技術的には可能だが、選挙管理をど
うするかは難問だ。

Y 個人献金はケイタイで可能で、これ
は普及するのではないか。

X 日本人はケチだから、どうかかな。
Y 24時間テレビで10数億円という
お金が集まるのだから集まらないはずは
ない。

Z 日韓中テレビ制作者フォーラムで放
送人の会に縁の深い原田令嗣氏は落選し
た。仁川のフォーラムにはくるそうだ。

X これまでの議員は新聞出身が放送出
身より多かったが、今回逆転し、放送出
身が20数名、新聞が10数名と放送が
2倍くらいになった。

X 今回の選挙は平成維新とか言われる
が、新聞で見たネーミングで面白いもの
では「こ破算でねがいましては選挙」「平
成ええじゃないか選挙」。

Y 1945年9月27日、占領軍が第
一生命に乗り込んできてGHQとして一
斉に戦犯探しと官庁への支配、管理、言
論規制を始めた。あれと同じイメージだ。
選挙民からすれば「ええじゃないか」そ
れと占領軍のイメージの合体だ。

Z 民主党の緊張感は大変なもので、笑
いたいけど笑えない。

X 先ほど「再生の町」の話をしたが、
八ッ場ダムの話ではないが、住民にサー

ビスをすればどこかが凹み、どこかが出
つばる。資源をどう再配分すればいいか
を末端の係長クラスが苦闘するプロジェ
クトだが、これはこれから民主党がやる
作業そのものだ。そんな個別具体的な作
業を民主党はやるうとしていた。

Y あのドラマは面白い。「官僚たちの
夏」の官僚は使命感に燃えている。霞ヶ
関では「夢よ、もう一度」感覚で涙を拭
って見ているそうだ(笑)。

Z 黒澤の「生きる」の役人がそうで、
地味で淡々と仕事をやる。「再生の町」は
この現代版だと思った。

Z NHKは朝、夕方、夜と視聴習慣が
定着している。面白おかしさの全くない
短いニュースが何故見られるの不思議
だ。NHKさえ見れば世間に遅れる
ことなく、先走りすることなく平穩に暮
らしていけると考える。「NHK型市民」
が広く存在しているようだ。しかし若者
には手も足も出ない。若者対象のドラマ
にははるかなものがない。

X かつて青少年部が作っていた少年ド
ラマというのがあった。普通のドラマと
はちよつと違うのだが、ドラマ部で一元
的にやるようになった。視聴率的にあの
ターゲットが欲しかったのだがここ数年
当たったものがない。やはり少年向けだ
からと目線を下げ、この程度でよかるう
となつてしまう。むしろドラマが本業で
なく青少年番組を作っているメンバーが
苦闘しながら少年ドラマを作った方がい
いと思う。

X 話を戻すと、開票速報で民主党の優
位がはつきりしたときの鳩山の記者会見
で何にも質問が出ない。その前に小沢が
「まだ開票の途中だ。結果が分からない

うちは言えない」とドスをきかせたから
だ。鳩山は「小沢さんならそう言うでし
ようが、記者会見はやりましょう」と始
まった。それで記者は何も言えなくなつ
た。情けない。

Y 有楽町の外人特派員記者クラブの記
者会見は凄い。ぼんぼん質問が出る。田
中角栄の事件もあそこ記者会見が発端
だった。あそこのような記者会見をとい
う意識は少しずつ生まれている。

Z 政治記者ではあの鳥ゲジ。彼は自分
では書かないが情報はいっぱい持ってい
た。例えば池田勇人との1対1の情報が
ある。われわれが聞くと教えてくれるが
自分からは言わない。

X 政治記者の悪い癖は政策通でなく、
政局通になることだ。政局通になると自
分が偉くなったような気がする。爪先立
ちして政局通になろうとし、政策がわか
らない。勉強していない。

Y 日本は政局ニュースばかりで政治ニ
ュースがないと言われる。逆に政治ニ
ュースはどこまで読んでもらえるのか。読
んでくれる読み手を育てよう。

X いや民放にも責任がある。この20
日ほど、マニフェストに基づくニュース
を曲りなりにもやった。これで見るとも
一つの習慣ができた。相当の進歩だ。

X ただし「ノリピー選挙」の総括はや
らなきや(笑)

座談会出席者
伊藤雅浩、河野尚行、隈部紀生、鈴木典之、
露木茂、松尾羊一、渡辺純史

収録 9月8日(火曜)午後3時〜7時
千代田区紀尾井町千代田放送会館
「放送人の会」事務局で

赤トンボの舞う風景

秋山豊寛

やわらかくなつた秋の光を浴びながら稲の穂が少しずつ頭を下げています。赤トンボが稲穂の上を舞っています。毎年見慣れた光景なのですが、これを見ると本当に安心します。

私の田圃を訪れるトンボの仲間には、ウスパキトンボやアキアカネ、様々なイトトンボ、それにオニヤンマやギンヤンマ。私が名前を知らないトンボも少なくありません。

気温が下がり始めますと、胴体が真っ赤なアキアカネが増えます。初夏に、田圃で羽化したあと、暑い盛りには標高の高い林間に移動していたのが、産卵のために、生まれた田圃に戻って来るのだからです。

昆虫に詳しい友人の話では、アキアカネは、稲刈りのあとの水田の水たまりなどに産卵して、卵のまま越冬。春になって、田植えの準備のため水を入れると、トロトロになった泥の中で孵化します。田植えのあとヤゴは脱皮しながら成長し、七月上旬には羽化するのだそうです。確かに、田の草取りをしている時に、目の前で、稲の葉につかまって羽化するアキアカネを見たことがあります。羽化したては、黄色っぽい胴体で、赤は目立ちません。

このアキアカネを最近見かけなくなつたと言う人がいます。そう言われれば、トンボの数についての「統計」などあるわ

けでもなく、ただの「印象」なのかもしれない。しかし、説明を聞くと根拠がないわけでもありません。水田の管理が極めて合理的になり、水田の生活に基礎を置く生物にとつて生きづらい環境が広がっていることが背景にある、と言います。たと

えば、稲刈りのあとの水田の水たまりなどは、田圃整備の乾田化で殆ど見られませんが、更に以前は使われていなかったタイプの殺虫剤の使用が「決定的かもしれない」と言われますと、かなり説得力があります。

殺虫剤は、生き物の神経系に影響を与えるので、これを使うと虫だけでなく哺乳類、つまり人間や魚類（人間のエサ）にも害が及ぶことが少なくありません。このため、研究者が、虫だけに効果が強い「殺虫剤」を開発しようと努力してきました。その結果、昆虫の神経系に対して「選択的」に効果のある物質が合成され、農薬として販売されることになりました。その構造が、タバコに含まれるニコチンに似ていることもあり、「ネオニコチノイド」系の農薬と呼ばれています。この系統の農薬の使用が広がりつつあり、これが「昆虫の世界に深刻な影響を与えている」というわけです。

具体例は蜜蜂の世界に起こりました。二〇〇五年、岩手県でカメムシ対策として、このネオニコチノイド系農薬が使用され、この地域の養蜂家が大きな被害を受け、地元の農協は、蜜蜂の大量死と農薬使用の因果関係を認めて、養蜂組合に見舞金を払いました。

養蜂家のミツバチは「家畜」ですから、人間が死んだミツバチにかわって「被害」

を訴えることができませんでした。しかし、この時死んだのは、カメムシやミツバチだけではありません。多くのハチ類、蝶類、トンボ類も死にました。この地域の生態系の環の一部が、大打撃を受けたわけ

です。その後も様々な虫たちがジェノサイドされる地域は広がっているようです。

何故、ネオニコチノイド系農薬の使用が広がっているのか。その理由の一つが水稲などへのカメムシ被害対策です。数百種類いるカメムシ類のうち、稲に関係するカメムシは六十四種類。この勢力が各地で拡大していると言います。

カメムシに詳しい昆虫学者の桐谷圭治さんにより、温暖化と減反政策に伴う耕作放棄地の拡大が、稲に被害を与えるカメムシ増加の原因なのだそうです。他にも、子煮のスキ、ヒノキ拡大造林制作も果樹に被害を与えるカメムシ増加の原因と言います。

要するに、国の政策の結果が、カメムシを増やし、その対策に農薬が使われる一種のマッチ・ポンプ。赤トンボの風景画失われるのも、国の政策の結果というわけです。命を大切にすることをかけ、政党が勝った今度の選挙結果は、赤トンボにも恩恵をもたらすのでしょうか。



今年も豊作——稲刈りの後で(撮影: 御堂義典)

『農のある暮らしへ』岩波書店より

後期高齢者向きお薦め番組紹介

美の巨人たち(テレ東) ヒネリのきいた切り口と小林薫ナレの架空美術館。東京カワイイ☆TV(総合) わざわざ原宿へ行かずとも孫娘的ネーチャンのスタイル&化け方教えます。

美の壺(教育) 古伊万里からアールヌーボーまで。ナビが谷啓から草刈正雄になってからツマンナイと愛好老人たちは嘆いてるそうだが、如何。

俳句王国(BS2) 放送人句会常連必見の生番組。ただし駄句も多し。

知る楽(教育) タマに知って時間を損する企画もまぎれこむ。要注意。

草野キッド(テレビ朝) 草野仁の野球・相撲・ゴルフ、なんでもござれ。

侍チユート(TBS系) 「サラリーマンNEO」の最強ライバル本格コント番組。藪内広之さん(会員)がカン

でる関西評判番組が東上しました。

週刊ブックレビュー(BS2) 新会員の兒玉清さま、玉石混交のベストセラ

ー本を25マスに叩き入れてアタックするテナ遊びの企画はどうでしょうか。

BS熱中夜話(BS2) 三国志や忠臣蔵、関ヶ原にアツイオタクの暴力的博識の自慢披露にはただただ呆然。

とどめは、ばあっ！(教育16時〜18時)のジャリ向けゾーン。ニホンゴ、

えいごで遊び、ピタゴラス・クインテッ

トなど、下手なバラエティー番組クソ食え！これ見ながら早い晩酌、です。

(M)

第十五回放送人句会

◇ 平成二十一年八月五日(水)

◇ 於：表屋

◇ 出席：伊藤祝郎、荻野慶人、豊田まつり、新村もとを、松尾馬笑、西川阿舟

◇ 不在投句：鶴橋康夫、山県ぼん太

◇ 兼題：涼し、海月、滑舌

ぬツと出てのつべらぼうの大クラゲ ぼん太(◎)視
 星月夜くらげ火星へ帰り行く 視郎(◎)慶、ま
 山椒大夫越前海月拉致の海 慶人(◎)ま、舟
 夕涼や亜麻色の髪風が梳く まつり(◎)も
 気がかりや赤海月行く敗戦忌 康夫(◎)馬
 月の出の沖へ流るるくらげかな 視郎(◎)舟、も、馬

滑舌よ耳のせいよと草むしり 慶人(視、馬)
 ひようひようと水母の親子旅立ちぬ 馬笑(視、舟)
 朝涼に釣竿二本舟を出す もとを(視、舟)

夜深き礁にくづれ海月潮 まつり(視)

風吹けど寂しさいずこ永田町 慶人(視)
 滑舌の悪しき論客ピアホール 康夫(視、慶、ま、馬、舟)

老優の滑舌見事夏芝居 阿舟(慶)
 電動のペダルを踏みて涼しげに 馬笑(慶)
 大き湯にひとりあるこそ涼しけれ 阿舟(慶)

恋の季終りし浜辺水母増ゆ もとを(慶、馬、舟)

峡宿に瀬音涼しく目覚めけり 阿舟(慶、も、馬)

海月浮く夕べ孤独な空の色 ぼん太(慶)

刺したあと浮き沈みするくらげかな 視郎(ま)
 舌もつれ政見ぶれる残暑かな 慶人(ま)
 夕立や逃げて唱えるガギグゲゴ 馬笑(ま)

とらへどこなき仇として水母かな もとを(ま、馬)

監督は木蔭で涼む草野球 視郎(ま)

うすものの胸ふくよかに水涼し 康夫(も)

大ジヨッキ老いて滑舌衰へず ぼん太(も、馬)

毒のない水母と定め避けもせず 阿舟(も)

二度寝する女の寝息涼しけれ 康夫(舟)

焼酎に突如滑舌良くなりて もとを(舟)

次回放送人句会

十月七日(水) 午後六時半

於：表屋(Fax 03・3586・0056)

兼題：秋の声、松茸、視聴率



鴨下信一氏を囲む会

石井 清司

鴨下信一はTBSテレビ相談役。「東芝日曜劇場」「岸辺のアルバム」「想い出づくり」「ふぞろいの林檎たち」の演出で知られるが、スケールの大きい「女たちの忠臣蔵」「関が原」「源氏物語」などの名作を世に出した力量に注目した。舞台の演出も多く、そして著作と多才だ。73歳にして、2008年の大作「シリーズ激動の昭和史 ああ戦争は何だったのか、日米開戦と東条

英機」(4時間37分)を世に問うたエネルギーと時代感覚は驚愕に値し、その真情、信条、制作秘話を詳しく聞く機会を、本年7月24日(東京ウイメンズプラザ)に持った。東条はビートたけしで、天皇が野村萬齋、ほか大杉漣、橋爪功ら癖のある大物役者を使い切った。新たに戦後を考えさせ、テレビドラマ不振に活を入れた。集いでは開演な弁で参会者を魅了した。監督経験のある役者はおえて出演の言うことをよく聞く。長い準備期間のあと一気呵成にやった。日米開戦時代を手がけたのは初めて。三木鮎郎司会のザ・ベストテンや東京音楽祭第1回も手がけ、時代劇から現代劇そしてドラマ以外と多分野を実に多作している。今度はたけしがやる、というのがきっかけになった。戦後の本を4冊出し、戦前、戦中、戦後が面白く本も読んだのでやりたかった。東条をチラと見たことがあり、小学5年で終戦。東条の写真は溢れていて、たけしと顔の骨格が似ていた。忙しい役者ばかりなので稽古なしもあった。衣装合わせは1日2人。役者へのレクチャー1時間、とたんに役者はガラリと変わった。木戸日記もぜんぶ読み、東京裁判記が面白かった。東条茂徳外相が外交を邪魔したという解釈を橋爪功がよく演じてくれた。

話は映画にも及び、映画がやらなくなったところをテレビがやり盛況を呼んだこと、サザエさんがそうだったなど。映画が大作主義と文芸路線へ傾き、テレビはお笑い路線や動画ほか映画が捨てたオイシイところをもらえた。

今はテレビがはずした当たらないホームドラマ路線などを逆に映画が採り、笑いあり涙ありの「おくりびと」もそれだ。テレビドラマは「時間ですよ」など昔受けた笑いを捨て、失った。「七人の刑事」さえ笑いがあつたのに。スタッフの官僚主義、前例踏襲主義などによる。度胸がない、自由さ臨機応変さが足りない、責任をとろうとしないなどだ。散会後もその熱白は変化に富んでつづけられた。

☆バチスタ方式という高度の心臓外科手術チームを主題とした推理小説がまず映画になり、次いでテレビドラマに原作は周知のようにベストセラー作家の海堂尊ドクター。

このチームは多くの命を救いましたが、先端医療の常として、いくつもの失敗を重ねていくという設定。主な舞台は精密工場のようなオペ室でスタッフは筒状の拡大メガネと大きなマスクをかけ、まるで仮面ライダーのよう。

緊張したオペ室に、こわもての厚生労働省の大臣官房から調査官の通称「ロジカルモンスター」(仲村トオル)が土足で踏み込み、冒頭で「これは殺人だ！」などと叫ぶのです。

☆なんととってもスゴイのは、画面一杯に露出された心臓です。ホンモノか模型なのか判断できないほど精巧な作りたまげます。驚いたのは、このオペが、いったん心臓を停止させ、人工心肺を機能させているあいだに行われること。そのオペ風景も異様です。

血管なのか、人工血管なのか、無数の糸状のものを引っ張る作業が続けられているのですが、その説明はないまま、怪奇ドラマは進みます。

もちろんお芝居ですから、スタッフの人間的な葛藤があります。でも、その内容は専門的で難解過ぎます。

☆オペ室にはベテランの看護師がいますが、彼女が涙を流さずに号泣する表情がクローズアップされたり、廊下で崩れたりの大袈裟なシーンがありましたが、これもワケが分からない。それ

だけ強度の緊張状態にあるということなのでしよう。でも、台本書きの一人として言えば、この張り詰めたシーンに連続するテーマが見えてこない。見えるのはオペ室の異様さだけ。

仮面ライダーの治療チーム、不気味に光るオペ器具、各種計器の数字の点滅とグラフ画面の斜線の動き。この中で、命のシンボルである心臓が抽出され糸状のもので縛られたり、引っ張られたりしているのです。ここでは医療の名のもとに命がもてあそばされて、としか感じられません。

☆トボけながらも鋭い厚生省医官の言い分をしょってみると、「このバチスタチームでは、殺人と紙一重の失敗が行われていて、そこには「ヒトの死」に対する畏敬の念はないまま「失敗という死」がまかり通っているということになります。

重度の疾病にたいする高度のオペに、死が避けられないことはわかります。しかし、そのときにも、思わず頭をかかえるとか、胸に手を当てるとか、人間の気持ちの表現としてのしぐさがあるのではないのでしょうか。

☆かつてNHKの『プロジェクトX』に登場された我が国におけるバチスタ手術の先覚者・須磨久善ドクターが、「先生の手は神の手といわれて」というアナウンサーをさえぎって静かに語った言葉はすごかった。

「いや、私の手は神の手などではありません。患者さんの手術がうまくいくようにと、神に祈る手なのです」

このときの感動はいまだに消えませんが、反対に、このドラマでの仮面ライダーたちの手は、とてもとても合掌する手には見えませんでした。かとい

て、自信に満ちた手でもないのです。なんとというか、「さあ、一丁やるか」と気合を入れる組み紐職人の手に見え、と、いったら当の職人さんたちから怒られるかな。

☆今ひとつ疑問が残っています。オペを受けるのは大半が子供だったことで、これはおそらくその医療を必要としているはずの高齢者ではうまくいかない、若い命が、若い心臓が適当ということなのでしょう。

でも、高度の医療は若い命を救うためにこそ使われて欲しいと思います。私のような78歳の老人の余生は、天国か浄土？に召されるまでの悪ふざけに使いたい。もちろん余命告知なんざ大きなお世話だ！(こんなところで開き直っても仕方ないか)

☆それにしても、鼓動を止めて命のシンボルを取り出してもあそび、その間、オペを失敗した名心臓外科医が、人工心肺の操作を受け持って命をつないでいる。大規模な舞台装置と混み入った仕掛けの中で、仮面ライダー群が命をころがしているというドラマでした。

このチームでは「死」という言葉は使わずに、「失敗」という言葉を吐いていました。

しかし、彼らの共通認識は、「死は避けられない通り道」なのです。表現を変えれば「死んでもしょうがない」怖い話です。この道なき道を通らないと命を引っ張っていけないらしい。わかったわけではありませんが、仕方ないか、とムリに納得しました。ときどき出てくる老名医の口癖、「死は医者者の専門外」を思い出しますが、彼は亡くなった患者に十字を切ります。

「死者の言葉に耳を傾けないと医療

はだんだん傲慢になってしまふ」というのです。

☆チームバチスタに続けて『ジェネラル・ルージュの凱旋』『ナイチンゲールの沈黙』『螺旋迷宮』と出ましたが、『凱旋』も上映されています。もの書きのハシクレとしては、医療ミステリーというジャンルがあったことに驚きます。まさに死角でした。見渡すと、海堂医師のほかにも『臓器農場』の帚木蓬生や『廃用身』の久坂部羊医師など、この分野で執筆している現役医師が結構いらっしやる。

もともと森鷗外、木下杢太郎、斎藤茂吉から山田風太郎、近くは愛欲ロマンの渡辺淳一まで、ドクター作家は数知れません。いずれ世の中のことのみんなわかってるといってお顔のヨーロッパ先生が解剖小説をお書きになるかも。

☆お医者さんにもいろいろあります、あの仮面ライダー秀才軍や、巨大病院に多い患者の顔を見ないでパソコン画面をみたまま「どうしました？」などと背中と言う連中より、聴診器をかけた長い白髪の町医者が好きだなあ。

(元『放送文化』編集長 要介護4)

なお、このエッセーは『社会医療ニュース』に連載コラムの中から選ばせていただいたものです。

◆江戸時代に書画骨董の集まりも億劫になったヒマな隠居老人たちは、面目会(どのくらい目がいいか競う会)とか尚齒会(歯を自慢する会)などを作ったそうです。

つる九百九十九年ねんめ 亀九千九百九十九 ああ尚齒会 笑止会 と太田蜀山人はからかいました。

構成 久野浩平

今回は制作者以外の諸氏を含め様々な分野の放送人をご紹介します。

野崎茂さんは学者です。敗戦直後ユニークな鎌倉アカデミーで哲学者三枝博音教授に師事、一九六一年CBCレポートに放送論を発表、六三年新設の民放連研究所に入り、放送の調査研究、放送理論に専念（名目の所長は赤尾好夫氏）、終始野崎さんのリードで放送の理論構築をすすめ、事例研究など皆無の「電波料論」「言語生活とCM」を論じ、テレビに押されて斜陽化したラジオの状況を系統的ヒアリングの集積によって解明した「ラジオ白書」、六五年には「視聴率の見方」「試聴率の研究」など、野崎さんの「証言」には民間放送のみならず放送文化の在り方までおよびます。ロカルニュースの活性化をもとめて展開したキャンペーン「取材態勢とENG」は画期的な示唆にみちたものでした。高橋信三、今道潤三、平井常次郎、石田達郎、鹿内信隆、小島源作氏ら民放連を舞台に活躍した経営者の素顔を語る部分には興味深いものがあります。「アメリカ風」に言えば「マーシャル・ブロードキャスト」で商業放送連盟なんだらうが（中略）ブル新なみの放送と共産党系からバカにされたわけですよ。そこで商業じゃなく民間放送、民放連になったと聞いてますね」

大越幸夫さんは毎日新聞出版局を経て五一年放送開始直前のラジオ東京（現TBS）に入社、最初は調査宣伝部所属でした。ラジオ東京はNHKに

対抗、もっと庶民的な娯楽教養、不偏不党な報道の総合編集を目指します。五四年ラジオニュース部、編成部、五年報道部へ。六〇年安保闘争中のハガチー事件で「国賓は礼を尽くして迎えましょう」という編成局長命のテロップ放送を編成部が拒否した際、大越さんは当のデスクを勤めていて反対しました。六四年初の中国特派員として北京に赴任、文化大革命直前の中国の回想も貴重です。「証言」後半は放送の変質、特に長年トップを走っていたTBS衰退への憂慮を語り、大事件の時はゴールデンアワーに報道特集を自由に編成できたTBSの見識は失われたのか、民放の理想はどこに消えたのかと、鋭く問い続けます。

「TBSの場合、新聞社の面影が残っていました。系列的にもそうで新聞社風なバックボーンがあった（中略）TBSの報道だけをソロバン勘定したら多分採算は合わなかったと思いますね。だけどほかの部分で儲ける、そのバランスに乗って利用する報道という自負と見識がありましたね」

松本忠久さんも六〇年ラジオ東京に入社、民放で最初に新設された番組宣伝課に所属します。まだテレビ専門の週刊誌など無い時代で「パンセン」という業界用語もここから生まれたといわれています。やがて試聴率の重大さが認識され僅か三人だった課員が十三年後には五十人を数えました。松本さんの「証言」は番宣の仕事内容、担当者の気質、新聞の社風で異なる各社ラ・テ記者たちとの付き合い方、記者の関心を惹くためのマンツーマンの情報提供など、こと細かに語ります。まず宣伝プロデューサーたちは台本を精読し、

番組のテーマや美点を理解することから始めました。六六年にビデオ・リサーチの個人視聴率調査が導入されて以来、ゴールデンアワーに限ればTBSが二十年間トップの座を維持していたのです。終わりに松本さんも控え目な語り口でTBSの変質に触れます。成田事件以降社内の雰囲気が変わったと思う、疾風怒涛の時代が終わった気がしたと。生涯番組を見続け、宣伝業務に尽くした人の言葉です。

「良い番組をもっと見て頂く、それはできるけれど、本質的に力の無い番組をよく見させることはできない。これは鉄則でして、番宣の力で番組を良くすることはできないんです。番組自体が力が無いとダメなんです」

渡邊泰雄さんは五三年NHK熊本中央放送局に入局、事務職から記者になり、鹿児島局を経て熊本に戻ります。五六年水俣の異様な病害の録音構成を企画、新日本窒素工場長のインタビュー取材を試みますがこれが水俣病報道の端緒になりました。五八年AKラジオオ社会部に移動、録音構成番組「マイク片手に」を担当、きだみのる氏や岡本太郎氏をレポーターに全国を取材します。六〇年にテレビ「日本の素顔」班に転属、「土の中の共同生活」「火山灰地に生きる」などの作品を作りまします。六三年から「現代の映像」を担当し、NHK流の重層的な機能を生かした「台風地帯」（六四年）は芸術祭賞を受賞。六八年に管理職に転身し報道現場と日放労の問題、労務問題と報道の関係などに触れます。「NC9」の担当部長としては番組ディレクターと現場の放送記者たちとの意見の相違に直面、報道の本質、取材の基本について

深く考える所がありました。「ニュースの信頼度を高めるためにしっかりと確認をとる（中略）ニュースの確度や裏取りというのは、やはり新聞社タイプの手法や仕事のやりかたはしっかりしていましたね」

最後は青木賢児さんです。五七年NHK入局、最初の勤務地は釧路局。取材は北洋漁業関係が主でカムチャツカまで行く長期の監視船に同乗するには病気でない盲腸の手術が求められるような時代でした。その後AK社会番組部に移り、テレビの「日本の素顔」班で「教祖誕生」「犬神」、戦死を認められない行方不明兵士の悲劇を訴える「いまだ帰還せず」など社会や戦争の傷痕を多く主題にしました。六七年「現代の映像」枠で放送した「炭鉱閉山の記録」は、閉山のプロセスに明治百年の悲惨な苦汗労働史を示す多数のスティール写真を重ね合わせ対比させる手法で描き、芸術祭賞を受賞。その後海外取材番組、明治百年プロジェクトに参加しますが、「証言」では芸能、教養、報道各部門から選ばれた優れたスタッフの協力によるプロジェクト制作態勢の意義、リーダーだった吉田直哉氏の番組論、考え方などに多くの時間を割きます。プロジェクト制作はさらに「未来への遺産」「シルクロード」へと発展、結実してゆくのですね。

「ドキュメンタリーは俗にあるがままだと作る言われたが、それはあまり意味がないと考えていた（中略）本当に価値があるのは、そこに制作者がいて制作意志をこめる人間がいる。そこを見る人（視聴者）が感じとってもらえるかどうか、映像の制作者としてはそこが勝負だろうと思うんです」

【あ】青木裕子 赤井朱美 秋田完 秋山豊寛 雨宮望 新井和子 有馬哲夫 石井彰 【い】石井清司 石井ふく子 石橋冠
磯野恭子 磯村健二 市岡康子 一色伸夫 伊藤雅浩 井上良介 岩澤敏 【う】上田千秋 碓井広義 歌田勝彦 宇野昭
【え】江口展之 遠藤利男 遠藤ふき子 遠藤雅充 【お】大蔵雄之助 太田敬雄 大西康司 大西文一郎 大原れいこ 大山勝美
大類啓 大脇明 岡弘道 岡崎栄 岡田晋吉 緒方陽一 岡村黎明 小河原正巳 沖野暲 荻野慶人 小田久榮門 織田晃之祐
【か】加賀美幸子 各務孝 片岡敬司 勝部領樹 加藤滋紀 加藤静夫 加藤迪 金沢敏子 兼歳正英 金平茂紀 加納孝夫
川平朝清 上安平冽子 鴨下信一 川口健一 川口幹夫 川竹和夫 河邑厚徳 河村正一 【き】岸田功 北川泰三 北川信 北出晃
北村美憲 北村充史 木村栄文 木村成忠 【く】楠美昌 工藤英博 隈部紀生 【こ】小池勝次郎 河野尚行 児玉清 児玉孝光
児玉久男 後藤和晃 小南武朗 近藤晋 今野勉 【さ】齊藤伸久 齊藤秀夫 斎明寺以玖子 酒井美樹男 寒河江正 坂元良江
桜井均 佐々木彰 佐々木欽三 佐藤秀山 佐藤利明 佐藤年 澤田隆治 沢田隆三 【し】重延浩 重村一 静永純一 嶋田親一
清水満 下重暲子 城菊子 【す】菅野高至 杉澤陽太郎 杉田成道 鈴木昭典 鈴木克明 鈴木典之 鈴木道明 須磨章
【せ】せんぼんよしこ 【そ】曾根英二 【た】高島秀之 高戸辰一 高橋一郎 高橋啓 滝大作 武本宏一 田澤正稔 田中昭男
田中直人 田原英二 田原茂行 【ち】千葉勉 【つ】露木茂 鶴橋康夫 【と】土居原作郎 堂本暲子 戸田佳太 外崎宏司
富永卓二 豊田由紀子 土門正夫 【な】中崎清栄 中澤忠正 中島僚 中田美知子 永田浩三 長沼士朗 永野敏一 中村敦夫
中村克史 中村季恵 中村耕治 中村芙美子 中山和記 難波秀哉 【に】新村もとを 西ヶ谷秀夫 西川章 丹羽美之
【の】野崎茂 信井文夫 【は】萩野靖乃 橋本潔 林健嗣 林裕史 原由美子 原田庸之助 【ひ】久野浩平 備前島文夫
【ふ】深町幸男 藤井潔 藤井チズ子 藤田晋也 藤久ミネ 【ほ】星田良子 堀川とんこう 【ま】前川英樹 松井泰弘 松尾羊一
松平定知 松前洋一 松本明 松本修 松本国昭 【み】三上義智 水上毅 水野憲一 三村景一 三村千鶴 宮川鑑一 三宅恭次
明神正 【む】村上光一 村上雅通 村上佑二 村田亨 【も】守分寿男 諸橋毅一 【や】八木康夫 矢島良彰 藪内広之
山泉昭彦 山崎隆保 山崎裕 山路家子 山田尚 山田良明 大和定次 山根基世 【よ】横沢彪 横山英治 吉澤保 吉永春子
吉村直樹 吉村光夫 【わ】和田智允 渡辺紘史

☆ 新会員紹介 ☆

児玉清さん

俳優 司会 エッセー作家

「パネルクイズアタック25」（朝
日放送）、「週刊ブックレビュー」

（NHK）、「世界びっくり旅行
社」（NHK）など。

会員消息

星田良子さん

まず10月18日からWOWOW発で
ドラマ「隠蔽指令」（5回連続）

次いで映画「僕らのワンダフルデ
イズ」（11月7日公開）。

この秋からは来年放送予定の東海
テレビ枠の昼オビに入ります。

.....

お願い

今、こんなことをやってる、こん
な集まりがある、おもしろい本を
読んでいる、夢中になってること
などなど身辺雑記やあなたの「熱
中時間」の中身などの短文を事務
局（佐藤）までお寄せくださいま
せ。字数は問いません。

本欄で紹介させて頂きます。

編集後記

◆後の世と聞けば遠きに似たれども
知らずや今日はその日なりとは

即日開票の夜、各局選挙特番を見比べ
ているうちに、この戯れうたを思いだ
した。なんだかんだ言ったって、野党
がマサカ政権を獲るなんて遠い夢だと。
「民主党300議席こえる勢い」と20
時を回った途端、NHKのテロップで
ある◆各新聞世論調査や週刊誌の事前
票田予測の驚くべき数字もあったが3
08対119とは！以後、選挙戦あれ
これから閣僚人事をへて鳩山内閣誕生
までの経緯はご存じの通り◆しかし
「なんでのりピーがアタマなんだよ」
と腐っていたのが報道局だろう。さる
大学の調査では、選挙期間中のりピー
押尾関連の報道が54時間55分にたいし
選挙報道は17時間52分しか割けなかつ
た（8/4以降）。言われてみれば選
挙報道は確かに低調だった。本来なら
政権交代やマニフェストの吟味と報道
局好みの材料が目白押しのはずだった
◆「のりピー無かりせば、わが社の予
測通り民主326自民90足してナン
ボになりさがつたのに」と悪酔いの某
夕刊紙記者に「そういうお前さんとこ
のトップ記事だって今日は民主圧勝、
明日は薬物事件のテレコで売りまくっ
ていたじゃねえか」と言っちゃったよ
◆いづれにしろ派閥領袖への夜討ち朝
駆けや記者クラブ詰めの取材シフトが
意味をなさない時代に入る。気分だけ
のリベラル気取りより、地道な調査報
道が復権しよう。保守革新かの55年
体制的な記事構造では満足できないし、
口あたりがいいだけのコメントター
も興味なし。お手並み拝見である（M）